

新しい伝統の構築を

東高校で新校舎完成式典

金沢学院東高校の新校舎完成記念式典は四月十八日、同校多目的ホールで、来賓、生徒、教職員ら約四百人が出席して開かれ、同校の新たなスタートを祝いました。



東高校の新校舎完成式典で式辞を述べた飛田理事長
「東高校多目的ホール

飛田秀一学校法人金沢学院理事長が「新校舎の建設は学校改革である。校舎が新しくなったら中身も新しくしなければならぬ。伝統を継承しつつ、新しい伝統を構築していくってほしい」と式辞を述べました。

来賓の山岸勇石川県副知事と山出保金沢市長から祝辞がありました。式には中西吉明県教育長、浅香久美子金沢市教育長も出席し、紹介されました。石田毅士郎校長が新しい校舎で教育理念の「創造」を実践していきたいと挨拶しました。最後に生徒会長の李康

石田毅士郎校長が各部門の代表五人に表彰状と記念品を手渡し、「この瞬間を一生懸命生き、充実した学生生活を送ってほしい」と激励しました。受賞者は次の皆さん。

45人に学長褒賞

金沢学院大学・短期大学の平成二十年度学長褒賞の授与式は四月十五日、4号館講堂で行われ、四十五人が表彰状と記念品を受け取りました。受賞者は、大学の学部長推薦三十五人、文化部長推薦二十一人、文化部長推薦三十五人、文化部長推薦二十一人、体育部長推薦二十一人、学友会二人、短大は学部長推薦一人です。

琦さん(二年)が「新しい身の明日を創造していきたい」と感謝の言葉を述べて今日を生きて、自分自身を磨きました。

本学教員らが講義

提携講座「ふるさと学スタート

学校法人金沢学院と北國新聞文化センターの提携講座「土曜大学院」ふるさと学」は四月十八日、金沢市南町の本学サテライト教室を会場に開講しました。八月と一月を除いて毎月第三土曜日に各二回、歴史、文学、美術工芸、生活の四分野で計二十回の講義があります。地域貢献事業の一つとして本学の教員らがそれぞれ熱弁をふるいます。初回は受講者約四十人を前に、大学院人文学研究科長の柳澤良一教授が「藤岡作太郎と川口久雄の日本文学研究」のテーマで、古典文学における「かげろふ」の意味する諸説について、小嶋芳孝



講義を行う柳澤教授

石田寛人学長が各部門の代表五人に表彰状と記念品を手渡し、「この瞬間を一生懸命生き、充実した学生生活を送ってほしい」と激励しました。受賞者は次の皆さん。

伊藤浩、廣橋春香、山根未清、齋藤ちひろ、山内咲子、室田勇樹、東佳葉、東川英理奈、南波章子、東緋美、帆刈喜子、小島泰子、体育部長 小竹拓也、吉田航、吉田昇、橋本優貴、大野拓、中川真依、伊東克範、小澤哲也、山田和也、岩井拓也、嶋本麻美、二階堂大輔、輪違剛士、齋藤賢心、山崎純、南雄一、山根誠、前河里奈、中出恭平、村中翔、北口加奈子、佐藤愛未、学友会関係 木賀美織、山口智央、高田

美術文化学部教授が「加賀と渤海の交流」のテーマで、奈良、平安期における環日本海交易と加賀の国の位置づけについて講義しました。

廣瀬教授に文科相表彰



省から科学技術部門の表彰を受けました。

表彰された研究テーマは「超音波計測による骨密度評価法の開発育成」で、廣瀬教授の金沢大学時代の教え子である松井和幸センサ社長(小松市)と、野方文雄岐阜大学工学部教授との共同研究です。

この研究によって、高齢化社会の進行に伴って増えている骨粗しょう症患者の検査について、従来の線ではなく、人体に影響のない超音波を用いて線に匹敵する高精度の検査結果を得られる方法を開発しました。さらに検査機器を製品化して普及させ、地場産業の活性化に貢献したことが評価されました。